今昔畫圖

續百鬼

雨

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

百鬼夜行題辭

貴衆器

神原文庫

曰維覿繪事由墨畫而生丹青焉是猶由大篆而生八分自結繩而有六經也夫書與画同厥體而俱文房之雅具也然而古之人而画古画不要厥雅焉自雅也今之人而寫古之画尤患其易俗焉耳茲用世難得其善

香川大学図書館
乙
21.3.30
42.3.31
123662

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

画至傳神妙者屬都下畫人石燕者
著画譜三卷命曰百鬼夜行介詮虎
告余曰願得師題言以木之燕子余
雖未識其面余與詮雨善因諾焉余
時雖痞作而伏力而獲寓目乃嘆曰
美哉燕子之為技一至此極耶奇則
画驢惱僧逸乃誤筆成牛況此譜其
變態百體細閲一二改觀迺覺一洗
多日瘴熱可謂得手應心至精妙者
也余素匪知繪事若六法者雖然試
以此方古之画譜云者筆之精孔之
惟肖於是知燕子之於此藝不同庸
庸人世之精茲技輩概見可曙焉
時

安永戊戌季秋日

廻菴道人題于東都日莫里

吉祥林之穿牛觀

頑庵藏

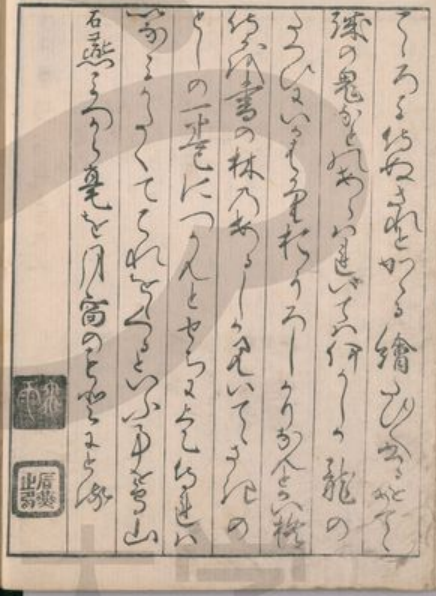
序

子怪力乱神を語らざりしかのゆゑ
下々木石は怪を夔蚿魍魎は怪を龍
図象土は怪を墳羊は尊は季桓子の
平子の中々羊を一匹ゆゑ生々閑るは
乃虎挾持ちゆゑ中華の麝香うの
ちゆゑ山海経を始めて搜神引異は諸色
錦々るを八仙のる物産閑々出る牛を汗
ヤ堂上は棟々蒙古今々の侵掠る思ひ

七石燕斗が繪ばなしごとを見て模刻寫の
口あいくまりせりあるやうな事ばかりあつ
あれども。かし弟很くさすむ石部金吉
金かなぐ。かぶりを掉てく怪るしもじんちん
く大事ちいかいかちふろ化物なかし。
東坡が那人とまるち如くちがくこと
妄言なり。人きに妄聽しく可や。附み
安永辛亥夏六月文摸刻寫之人書

香川大学

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

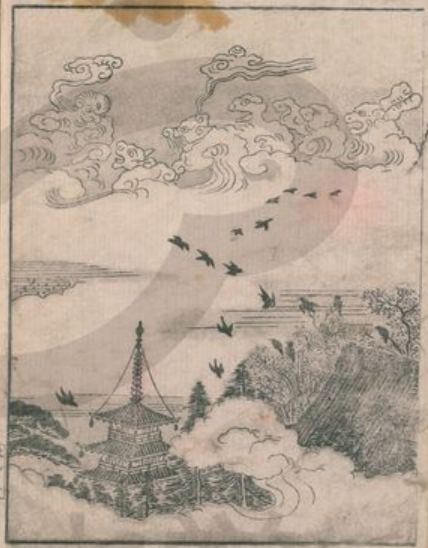


今昔續百鬼卷之上

逢魔時　○
山精　○
水虎　○
間頻童子　○
般若　○
入門雀　○

鬼　○
魅　○
覺　○
橋姫　○
幸作き　○
玉藻前　○
屯時糸　○

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』



香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

世に五寅のうと
四門と云今鬼の
形を画く伝説牛角
とりて虎擂に虎皮を
まとふ毛丑と寅との二つ
を合せくこの形をなすう
といふ

山精

とろ〳〵安國寺に山精あり人の近くよりて
一足きり後は人のもてる鍋をぬきこの石蟹
と名づけて人と
永喜此を見たり

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

覺

酒顛童子

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

玉藻前

長壁

長壁ハ古城ヲ
妖怪ノ住ル
おさへ赤ゑ
ちるなり

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

丑時参

丑時まゐり藁人形を二つ拵へ一つは己れ一つは
婿を無ト丑とつの比祈社のうしろ杉の樹
に打つけうやうやうあさ七の鐘鳴
人と驚くを見すまして
人と驚くを見すまして
わらの
逆さ
釘
ん

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』

香川大学図書館　タイトル『今昔続百鬼』